

鉛フリーハンダの評価

コスト数十分の1に

実装メーカー不要 EMSがプリント基板は設計が不要

EMS(大阪府高槻市、赤塚正志社長、072・681・3005)は、鉛フリーハンダ評価用のプリント基板を開発した。実装メーカーやセツトメーカーは性能を確認するために必要だった評価用基板の設計が不要になり、コストを数十分の1に削減できる。価格は1号10枚で5万円前後を想定。7月中旬に発売し、初年度4万枚の販売を目指す。

鉛フリーハンダを使った基板開発の初期段階で使う。実際に製品に組み込む基板そのものではないものの、基板と部品の接合状態などのテストが可能。

同社が鉛フリーハンダの評価に必要と思われる一般的な電子部品20種類を用意。それらをハンダ付けした標準的な基板をユーザーに供給し、ユーザーが接合状態などをチェックする。現在標準基板1種類を作成しており、基板の厚さや表面加工の違いなど、6パターンがある。

年内には回路設計を変え、基板を5種類に増やす計画。通常、1枚の基

板の設計には数十万円の費用がかかる。同製品を使うことにより、大幅なコストダウンが可能になる。

06年7月以降、欧州へは鉛などの有害物質を含む商品は輸出禁止になるため鉛フリーハンダの使用が拡大している。鉛フ

リーハンダは融点が高いなどの課題があり、基板と部品がきちんと接合しているかが重要になる。このため機能評価のニーズは高まっていた。

同社はプリント基板の信頼性や接合状態などの評価試験を請け負うサービスも行っている。